people 人のいる風景

林 燦さん

はやし●きら

自慢のストレートに磨きをかけて

「みんなから手本にされるようなピッチャーになりたい」

《千歳リトルシニア球団》は、市内の中学生を中心に活動する硬式野球チームです。同球団の投手・林さんは、全道の35チーム、選手1000人以上の中から《北海道選抜チーム》のメンバーに選ばれ、昨年末に台湾で開かれた《日台国際野球大会》に出場しました。

帰国後も、日々寒さに負けず、練習に励む林さんに、初めて出場した国際大会の感想や今後の目標について、お話を聞きました。

●北海道選抜チームのメンバーに選ばれたときの気持ちは？

「最初に話を聞いたときは、とてもうれしかったのですが、だんだんと責任を感じて、不安になることもありました。ほかのチームメイトのことを考えたら、《本当に自分でいいのか》と思い込んだり…。でも、みんな《頑張れ！》と応援してくれたので、チームの代表として、精いっぱいやろうと決意しました。」

●台湾での試合はどうでしたか？

「チームの成績は、10試合中、2勝でした。僕は中継ぎとして、3試合に登板しましたが、台湾のチームは、本当にレベルが高く、自慢のストレートでも三振がとれず、とても悔しかったです。でも、北海道選抜チームとしての練習や試合は、学ぶことがたくさんありました。この冬の間に、しっかり練習をして、もっと伸びるストレートに仕上げたいです。」

●野球をする上で、心がけていることはありますか？

「野球を始めた小学1年生のときから、グローブなどの用具を大切にすることを自分で決めて、ずっと守っています。大好きな野球ができるのは、家族が応援してくれるおかげなので、両親が一生懸命働いて買ってくれた用具は、感謝の気持ちで大切に使いたいと思っています。」

●今後の目標は？

「千歳リトルシニア球団は、3月に大阪で開かれる《全国選抜野球大会》の出場が決まっています。優勝を目指して、確実に一勝を積み上げたいです。

将来の夢は、もちろん、プロ野球選手になることです。ピンチのときに三振をとれて、みんなから手本にされるような、かっこいいピッチャーになりたいです。」

野球の話をするとき、林さんの瞳の輝きから《野球が大好き》な気持ちがひしひしと伝わってきます。3月の全国大会は、《中学生の春の甲子園》ともいえる、栄誉ある大会。チームの頼れるエースとして、林さんの活躍が期待されます。

▶台湾遠征前に、北海道選抜チームのユニフォーム姿で、山口市長を表敬訪問した林さん（昨年12月21日撮影）。

▲千歳リトルシニア球団の皆さんと山木監督（林さんは後列左から３人目）。全国大会に向けて、冬期間の練習にも熱が入ります。

プロフィール

■林 燦（はやし きら）さん／勇舞中２年生／小学１年生のときに、５つ上の兄の影響で野球を始め、千歳リトルシニア球団入団後は、投手としての頭角を現す。177㎝という長身から繰り出されるストレートが持ち味で、球速は130km/hにも達する。